

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 9/15 }
平成30年(2018年)
No.2237

クールで熱い。
杉並のジャズな日。

秋の週末、阿佐谷の街にジャズの音色が溢れる「阿佐谷ジャズストリート」が、今年も開催されます。今回で24回を数えるこのイベントに、実に20回目の出演となるのが、日本を代表するジャズピアニスト・山下洋輔さん。若かりし頃を阿佐谷で過ごしたという山下さんに、ジャズストリートへの思いや阿佐谷に住んでいた当時の思い出を伺いました。

特集

すぎなみピト

山下
洋輔



Contents — 主な記事 —

7 | 受けよう！がん検診 8 | 杉並区総合文化祭 9 | 杉並清掃工場環境フェア2018 16 | 秋の全国交通安全運動

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

—阿佐谷ジャズストリートに参加するようになったきっかけを教えてください。
僕が初めて参加した平成9年は、父を亡くした年でもあります。葬儀で阿佐ヶ谷神明宮の宮司さんに大変お世話になったのですが、この方が僕のことをよく知っていて、スタートして間もないジャズストリートへの出演を勧めてくださったんです。

葬儀後の雑談で宮司さんに「実は阿佐谷に、地域が一体となってジャズを楽しむジャズストリートというものができるまで……」と切り出されたときは、「阿佐谷にそんなイベントがあったのか」と驚きました。詳しく話を聞くと、神明宮にもステージを設けてライブをやっていると。実家が神明宮のすぐそばでしたから、これも何かの縁だと二つ返事で引き受けました。

—山下さんから見て阿佐谷ジャズストリートは、どんなイベントですか。
学校や公共施設、駅前の広場など、さまざまな場所にステージを設けてライブをしたり、デキシーバンドが街中を練り歩いたり、阿佐谷の街全部が文字通り「ジャズストリート」になるんですね。素晴らしいイベントだと思います。

当日の街のにぎわいを見てみると、本当にたくさんの方がこのイベントに関心を持っていることがよくわかります。もちろん私もその一人です。子どもの頃、何度も転校した僕にはたくさんの故郷がありますが、その中でも阿佐



▲阿佐ヶ谷神明宮にある能楽殿でのライブの様子

谷は大切な時期を過ごした特別な場所です。その街のイベントで演奏するのですから思いはひとしおです。



—阿佐谷にお住まいになっていた頃の思い出を教えてください。
僕にとって阿佐谷の思い出といえば「反省の道」です。阿佐谷北の実家近くから、阿佐ヶ谷神明宮の横を通って阿佐ヶ谷駅まで続く道なのですが、これがどこまでも続くように長く真っすぐなんです。高校・音大時代を阿佐谷で過ごした僕は、通学はもちろん、出掛けるときはいつもこの道を通っていました。

「反省の道」と名付けたのは、実家によく遊びに来ていた兄の友人です。兄は僕にジャズを教えてくれた人で、その友人も皆、面白い人ばかりでした。僕も大学生になると兄たちに交じって駅前で飲むようになったのですが、あるとき皆で飲んで酔っ払い、実家に行こうとその道を歩いていると、兄の友人の一人がこう言うんです。「しかし長い道だな。だが反省するには十分だ。この道を『反省の道』と呼ぼう」と。それからというもの、僕にとってその道は反省の道になりました。今も実家を訪ねるときは必ず反省の道を歩きます。とにかく長く真っすぐですから、今の僕にはちょっと長すぎますけど(笑)。

—一番街の名曲喫茶に音大の仲間と集まり、ジャズ評論家の相倉久人さんを招いて話を聞く勉強会をたびたび開いていたことも思い出です。生物や宇宙、SFなど、音楽の領域を超えてどんどん広がる相倉さんの話に、参加者全員が聞き入ったものです。「とにかく人のマネをしているようなやつはダ

メ。つまらないでしょ」と、相倉さんにはよく言われました。そんな言葉の一つ一つが、僕の音楽活動に影響を及ぼしています。

—結婚後も杉並区内にお住まいになったとか。
結婚後は実家を出て、天沼に住みました。その頃は毎日のように新宿のバーに出掛けて騒いでいましたね。タモリがいたりとか、筒井康隆さんがいたりとか、とにかく面白い人たちが夜な夜な集まるので、「毎日行かなければ、何が起きているか分からなくなる」なんて言って出掛けるんです(笑)。手持ちは電車賃だけ。でも、帰りはなぜかタクシーで帰ってくる。誰かに出してもらっていたんですよ。山下洋輔トリオの森山威男は荻窪に住んでいましたから、二人で誰かにたかってはタクシーで帰っていました。そんな時代でしたね。



—現在は区外にお住まいとのことですが、外から見た杉並区の印象をお聞かせください。

杉並区には「文化的な地域」という印象があります。杉並のことが話題に上ると、誰もが口をそろえてそう言います。「文化の香りがするまち・杉並」という印象は、日本中に広まっていると感じます。

—今年も阿佐谷ジャズストリートが開催されます。
今回は、結成30年を迎えた「山下洋輔ニューヨーク・トリオ」で出演します。トリオを組むセルシ・マクビーとフェロン・アクラフの二人も、阿佐ヶ谷神明宮の能楽殿で演奏するのを心待ちにしています。

今、阿佐谷ジャズストリートは、どんどん発展していますから、皆が出演を楽しみにしているんですよ。阿佐谷ジャズストリートへの出演を自分の芸歴に書くミュージシャンが何人もいるほどです。このイベントは、すでにステータスになっているといっていいでしょう。私も若手にその良さを積極的に伝え、一緒にやらないかと声を掛けています。

街のありとあらゆるところでジャズが鳴り響く2日間があるというのが、杉並らしくていいですね。どんどん素晴らしいミュージシャンを呼んでいただいて、これからも大いに発展してほしいと思います。



▲山下洋輔ニューヨーク・トリオ

ジャズが鳴り響く2日間があるというのが、杉並らしくていい。

interview
すぎなみビト × 山下洋輔

プロフィール：山下洋輔(やました・ようすけ)。ジャズピアニスト。昭和17年、東京生まれ。昭和44年に山下洋輔トリオを結成。それまでのスタンダードな音楽スタイルから一転、フリージャズを演奏して注目を集める。以来、50年近く日本のジャズをけん引してきた。近年は、国内外の一流ジャズアーティストはもとより、和太鼓やシンフォニー・オーケストラとの共演など活動の幅を広げている。多数の著書があり、作家・エッセイストとしても高く評価されている。現在、国立音楽大学の招聘教授を務める。

杉並ゆかりの文化人 アーカイブ映像集
ジャズピアニスト 山下洋輔さん
「自分の音を貫いて」

「杉並区公式チャンネル」で視聴できる短編作品(15分程度)のほか、区立図書館、文化・交流課(区役所西棟7階)では、インタビューを中心に人物に密着した長編作品「語る」(50分程度)などを収録したDVDを貸し出ししています。

短編作品はこちらから

<http://www.city.suginami.tokyo.jp/koho/douga/1018066/1040136.html>

阿佐谷で「生」のジャズを楽しむ

JR阿佐ヶ谷駅周辺にはジャズの生演奏を楽しめるお店が数店あり、阿佐谷ジャズストリートの会場にもなっています。生演奏の醍醐味を感じ、ぜひ足を運んでみてください。

▲「jazz bar KLAVER (クラヴィエア)」※今回の取材にご協力いただきました。

山下さんに聞いた ジャズの聴き方・楽しみ方

ジャズってハードルが高そう、難しそうと思いませんか？初心者でもジャズを気軽に楽しめるポイントを山下さんに教えてもらいました。

- 1 まずはこの1曲
ジャズがどんな音楽なのか分からないという人に、ぜひ聴いてほしいのがモーツァルトの「きらきら星変奏曲」。この曲を楽しめれば、アドリブによって曲がさまざまに表情を変えるジャズの魅力を理解できるでしょう。
- 2 ミュージシャンの個性(ソロ演奏)に注目
楽器ごとのソロがあったら耳を傾けてじっくり聴いてみて。ミュージシャンがその曲をどう捉えて演奏しているのかが想像できるようになるとジャズの楽しみが膨らみますよ。
- 3 楽器同士の「会話」を楽しむ
脚本がある芝居のようにきちんと決められた音のやり取りもあれば、漫才のようなアドリブの応酬になることもある。ジャズバンドの「会話」を自分の耳で確かめてみて。

ジャズを聴きたい、楽しみたい方はこちら！

山下洋輔さんらが参加する
阿佐谷ジャズストリート2018
10/26[金]・27[土]
詳しくは16面へ